

豊田市における公共交通サービスに関する一考察

豊田工業高等専門学校 正員 野田 宏治

豊田工業高等専門学校 正員 栗本 謙

豊田工業高等専門学校 正員 萩野 弘

1. はじめに

豊田市内の公共交通機関には鉄道3路線、バスでは名鉄豊田市駅を拠点とし放射状に伸びる系統が大半で、その他には市街地を循環する系統、鉄道駅と周辺都市とを結ぶ系統、合わせて43系統(8%)ある。

これら公共交通機関については、豊田市民に対して昭和56年9月に実施した「交通問題に関する意識調査」により豊田市における公共交通サービスの一部を明らかにした。本研究では、これらの結果をうけて豊田市を図1に示す6地区に分け、地区ごとの公共交通サービス水準を明らかにしたい。

2. 6地区の土地利用

①北部の猿投地区、東部の高橋、松平地区は山地がほとんどを占めているが、猿投地区の南部、高橋地区の西部には住宅団地が形成されている。②挙母地区は住居地域、工業地域が混在し、豊田市駅を中心とする商業・業務地域があり、商業教は全市の6割が挙母地区に集中している。③南部の高岡、上郷地区は農業地域であり、その中に自動車産業を中心とする工業地域が散在している。

3. 公共交通機関利用者属性

利用者の市計では、女性が62.9%と高く、職業では主婦が28.7%を占めており、公共交通機関を「週に1~2回」以上利用する人が38.1%、その利用目的は「娯楽・私用」53.5%、「日常の買物」22.8%となっている。地区別では女性の割合が高橋地区では74.8%と高く、従って主婦の割合も45.8%となっている。しかし松平地区では女性が65.5%に対し主婦は17.2%と低い。利用頻度の最頻値は、猿投地区「毎日」29.7%、高橋、松平地区「1か月1~2回」45.8%、43.1%となっており、利用目的では、「娯楽・私用」が高橋地区61.4%、高岡地区57.8%、挙母地区54.4%となっている。

4. 公共交通サービス

表1には、市計および6地区における各サービス項目の臨界値を示した。臨界値とは各サービス項目の評価の満足(たいへん満足+まあまあ満足)と不満(やや不満+たいへん不満)の割合が等しくなる値をいう。

アクセス時間、定時性においては地区による差はないが、始発時刻については、松平地区が遅い時

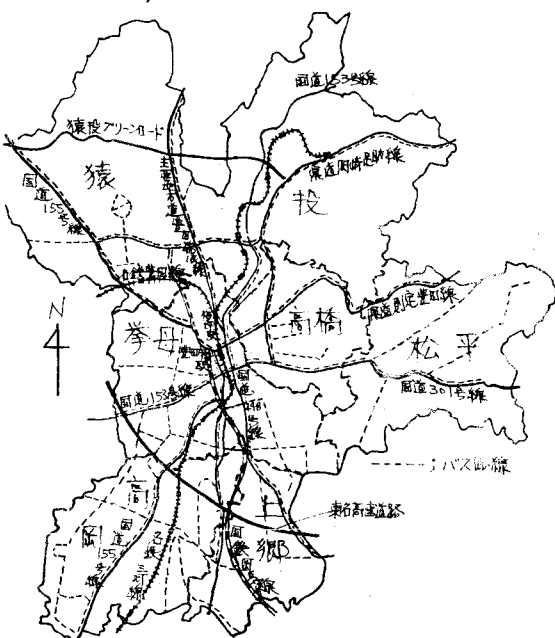


図1 豊田市地区図

表1. 市計および地区ごとの臨界値

サービス項目	市計	猿投地区	高橋地区	松平地区	挙母地区	上郷地区	高岡地区
アクセス時間	10分ぐらい	—	—	—	—	—	—
始発時刻	6時半ごろ	—	6時半—7時ごろ	7時—7時半以後	6時半—7時ごろ	6時半—7時ごろ	—
終着時刻	9時半—10時ごろ	10時半ごろ	9時ごろ	9時ごろ	10時ごろ	×	10時—10時半ごろ
運転間隔	20分	—	—	30分—1時間	—	—	15分—20分
定時性	時々行けないとあり	—	—	—	—	—	—
乗車時間	31～40分	21～30分—31～40分	21～30分	—	—	—	—
車内混雑	すわれないとあり —はしむとわづらひ	—	—	すわれないとあるが すいている	すわれないとあるが すいている	—	—
片道料金	110～120円—130～140円	—	110～120円	260～300円	110～120円	150～160円	130～140円
車内冷房	一部冷房あり	—	—	一部冷房—たに冷房	—	—	—
アクセス時間	10分ぐらい	—	—	—	—	7～8分ぐらい—10分ぐらい	7～8分ぐらい—10分ぐらい
所要時間	31～40分	—	—	5～60分—1時間以上	41～50分	—	—

—;市計と同じ ×; 臨界点をもたない

刻である。終着時刻では、高橋地区、松平地区が9時ごろと早いが高岡地区、猿投地区では10時から10時半ごろと遅い。上郷地区では不満の割合が高く臨界値をもたない。運転間隔、片道料金、所要時間では松平地区が他地区とは掛け離れ、それぞれ30分から1時間、260円から300円、1時間前後となっている。挙母地区は豊田市の中心でありながら所要時間が41～50分となっているのは、豊田市外(名古屋、岡崎方面)への交通が多いためと思われる。

5. 数量化理論Ⅱ類による分析

図2は地区ごとの数量化理論Ⅱ類による分析結果を外制基準である公共交通機関利用総合評価に影響を及ぼすものを、スコアレンジにより順位付けしたものである。

松平地区はサンプル数は少ないが、他地区では所要時間が総合評価に大きく影響を及ぼしているのに対し終着時刻となっている。ところが挙母地区では終着時刻は影響をあまり及ぼすものとはなっていない。乗車時間では上郷地区は2番目に高いのに対し高岡地区では1番目となっている。

高岡地区には名鉄三河線があるのに対し、上郷地区では国鉄岡多線があるものの運行本数が少ないからバス利用による違いであろうと思われる。

6. おわりに

本研究で用いたデータは建設省名古屋工事事務所、財団法人豊田都市交通問題研究会からいただいた。分析には豊田高専データステーションの端末から名古屋大学大型計算機センターのシステムを用いた。

参考文献 1) 野田・栗本・荻野; 豊田市における公共交通サービス水準に関する研究 昭和56年度中部支那研究協議会発表

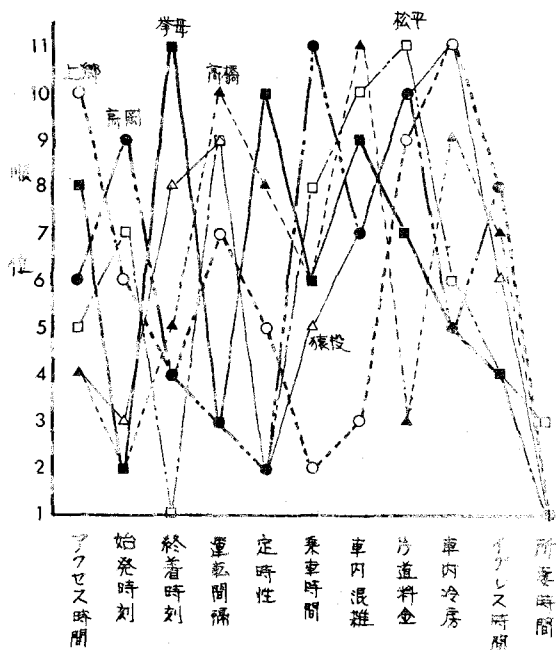


図2. 数量化理論Ⅱ類による分析結果
(スコアレンジによる順位付け)